

岩手県感染症週報

平成26年第49週（12月1日～12月7日）

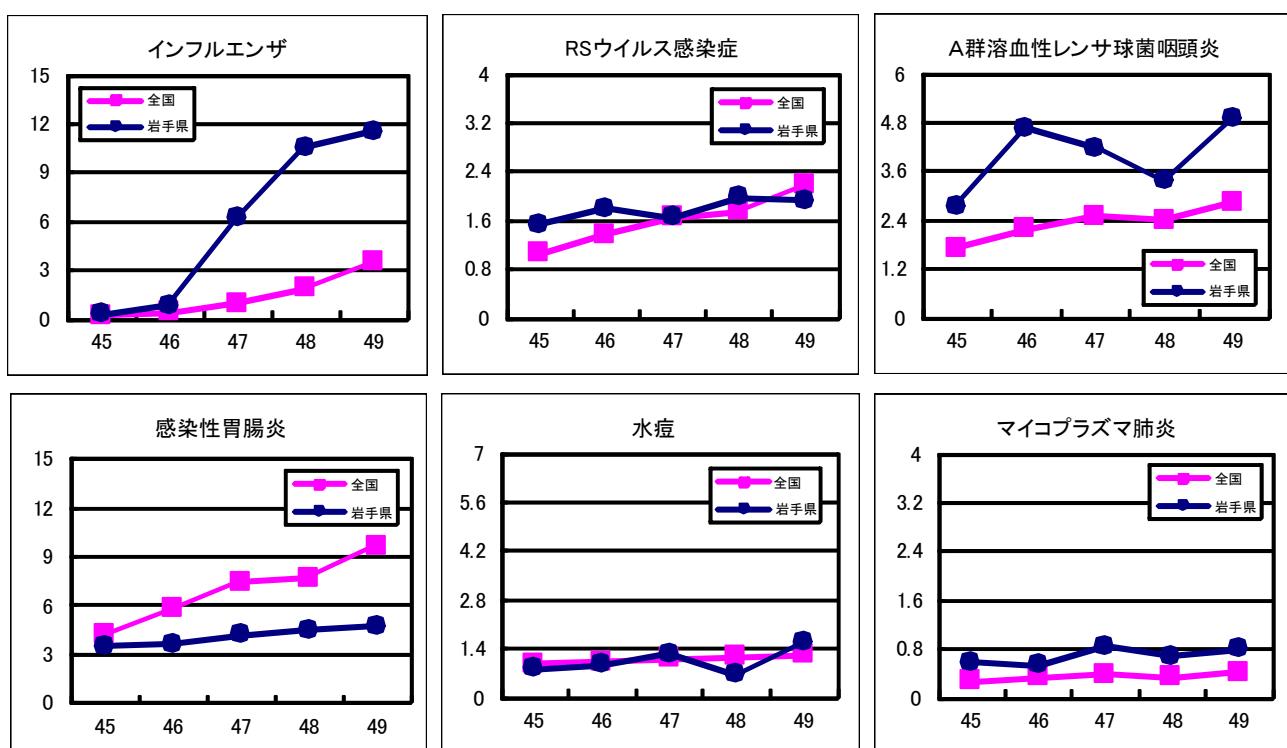
岩手県感染症情報センター

第49週の概要

- 1類感染症
- ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2類感染症
- ・結核の患者の報告が1例ありました。潜在性結核感染症の報告はありませんでした。
- 3類感染症
- ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4類感染症
- ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5類感染症（全数把握対象疾患）
- ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5類感染症（定点把握対象疾患）
- ・インフルエンザは、すべての地区より患者の報告があり、全県の定点あたり患者数は前週よりやや増加し11.55人となりました。中部（26.08人）、奥州（23.86人）および大船渡地区（11.67人）で注意報値（同10人）を超えてます。症状は、発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、関節痛などが突然現れます。症状がある場合や、かかったかなと感じた場合には、早めの医療機関の受診が勧められます。予防には、帰宅後の手洗い、咳エチケット、ワクチン接種などが重要です。ワクチンは接種後効果が現れるまでに2週間程度かかるので、早めの接種が勧められます。
 - ・溶連菌咽頭炎は、例年に比べ、患者の多い状況が続いており、この週は平成11年以降で一番多い報告数となりました。中部地区で警報値（同8人）を超えてます。
 - ・RSウイルス感染症は、釜石地区で、10月下旬より患者の多い状況が続いているほか、盛岡市、中部、奥州地区でも多くなっており、今後も注意が必要です。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向
		45	46	47	48	49	
インフルエンザ	岩手県	0.27	0.84	6.2	10.52	11.55	↗
	全国	0.22	0.37	0.94	1.9	3.49	☆
RSウイルス感染症	岩手県	1.53	1.8	1.65	1.98	1.93	→
	全国	1.06	1.37	1.65	1.74	2.18	☆
咽頭結膜熱	岩手県	0.05	0.13	0.2	0.2	0.38	→
	全国	0.39	0.5	0.53	0.53	0.62	☆☆
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.73	4.65	4.18	3.35	4.9	↗
	全国	1.7	2.17	2.49	2.4	2.83	☆☆
感染性胃腸炎	岩手県	3.48	3.63	4.15	4.45	4.7	↗
	全国	4.19	5.78	7.42	7.66	9.63	☆
水痘	岩手県	0.83	0.93	1.25	0.65	1.55	↗
	全国	0.97	1.01	1.1	1.17	1.22	☆
手足口病	岩手県	0.25	0.13	0.05	0.08	0.28	→
	全国	0.65	0.71	0.81	0.65	0.74	
伝染性紅斑	岩手県	0.2	0.58	0.8	0.63	0.4	→
	全国	0.19	0.25	0.29	0.28	0.33	☆☆
突発性発疹	岩手県	0.5	0.7	0.55	0.43	0.58	→
	全国	0.53	0.55	0.55	0.5	0.51	☆
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
ヘルパンギーナ	岩手県	0.08	0.1	0.03	0.03	0.03	→
	全国	0.13	0.11	0.09	0.08	0.09	
流行性耳下腺炎	岩手県	0.13	0.18	0.18	0.15	0.25	→
	全国	0.28	0.31	0.28	0.3	0.33	☆
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0	0.01	0.01	0.01	0.01	
流行性角結膜炎	岩手県	0.29	0.36	0.43	0.43	0.5	→
	全国	0.43	0.5	0.55	0.57	0.6	
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.03	0.02	
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0.11	0	0	0	→
	全国	0.02	0.04	0.02	0.01	0.03	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.58	0.53	0.84	0.68	0.79	→
	全国	0.27	0.33	0.38	0.33	0.42	☆
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0	0	0	0	0.05	→
	全国	0.01	0.01	0.02	0.03	0.04	
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	1	4	7	8	14	
	全国	12	15	38	59	112	

【流行傾向の見方】

無印：ほとんど患者が発生していません

☆：患者が発生しています

☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります

☆☆☆：多くの地区で警報値を超えていません

全数把握対象疾患（過去5週の動き）

※重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が
2013年10週より対象疾患になりました。
(患者発生数)

	疾病名	岩手県						全国	
		(週) 45	46	47	48	49	累計	49	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核（）内は潜在性結核感染症患者再掲	12 (9)	3 (1)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	256 (98)	313	24290
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H5N1）	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	4
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	3	1	143
	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	0	0	0	131	39	4023
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	53
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	15
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	5	3	131
	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	0	421
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	18
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	1	9
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	0	0	0	0	0	0	1	59
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	12
	つつが虫病	0	0	0	0	0	5	15	246
	デング熱	0	0	0	0	0	1	2	332
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	232
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	10
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	57
	野兎病	0	0	0	0	0	0	0	1
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	16
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	7	16	1140
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	46
	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0

全数把握対象疾患（続き）（過去5週の動き）

（患者発生数）

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘（入院例）、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネットバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	(週)						岩手県		全国	
		45	46	47	48	49	累計	49	累計	49	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	15	14	1040		
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及D型肝炎を除く）	0	0	0	0	0	0	4	214		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	1	9	238		
	急性脳炎（エストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	5	7	418		
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	1	0	98		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	3	4	164		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	3	255		
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	0	0	2	16	1416		
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	62		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	180		
	侵襲性皰膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	33		
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	8	34	1615		
	水痘（入院例）	0	0	0	0	0	1	8	110		
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	9		
	梅毒	0	0	0	0	0	2	21	1534		
	播種性クリプトコックス症	0	1	0	0	0	1	1	21		
	破傷風	0	0	0	0	0	4	0	119		
	パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	48		
	風しん	0	0	1	0	0	3	2	315		
	麻しん	0	0	0	0	0	0	1	460		
	薬剤耐性アシネットバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
指定	中東呼吸器症候群（MERS）	0	0	0	0	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ（H7N9）	0	0	0	0	0	0	0	0		

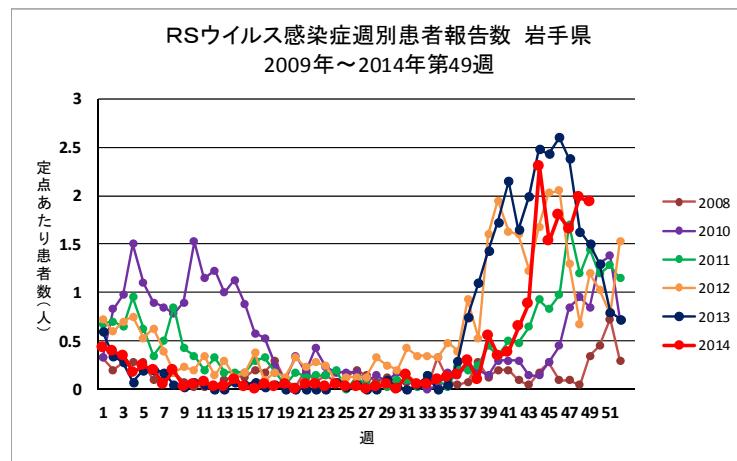
今注目の感染症

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス（respiratory syncytial virus）を原因とする呼吸器感染症です。終生免疫は獲得されず、年齢を問わず生涯にわたり顕性感染を繰り返し、生後1歳までに半数以上の児が、2歳までにはほぼ100%の児が初感染を受けるとされています。症状は、軽い風邪の症状から重い肺炎までいろいろです。初めて感染した場合には、肺炎や細気管支炎など重篤な症状を起こす場合があります。無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳症なども注意すべき合併症です。

例年、冬期に発生のピークが見られますが、2012、2013年は9月上旬から報告数が増加し始めました。今年は、第42週（10月中旬）から報告数が増加し始め、第44週に大きく増加しました。第45週には減少しましたが、第45週以降も、報告数の高い状況が続いています。今後の発生の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症に関するQ&A http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/rs_qa.html



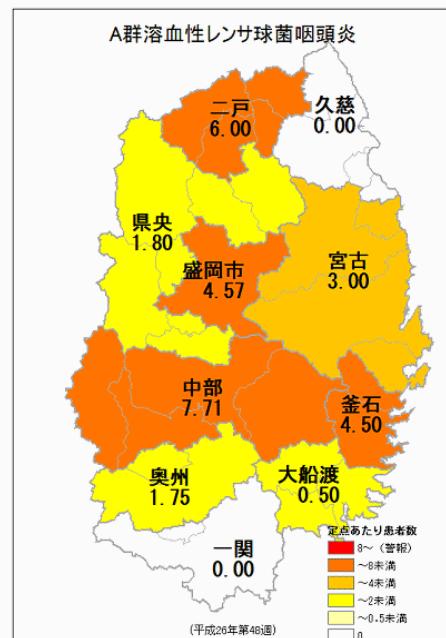
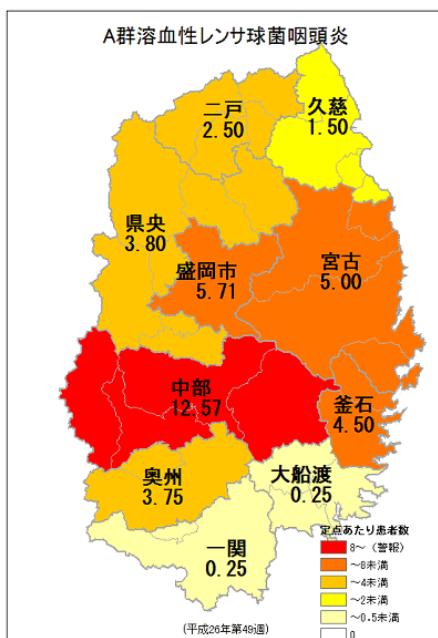
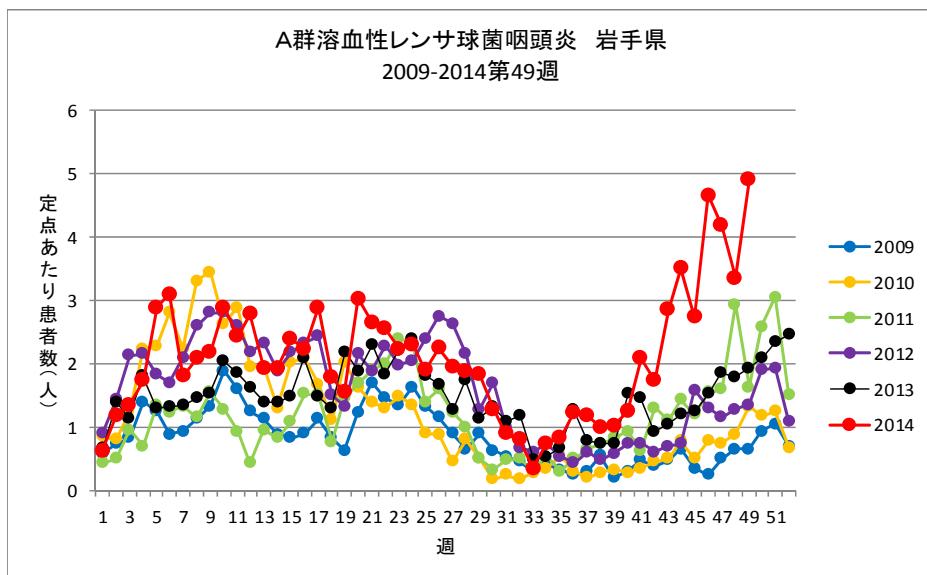
今注目の感染症（つづき）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭痛、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後急性腎炎を併発する事があるので7～10日間の抗菌薬内服が必要です。予後良好の疾患ですが、菌が產生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

予防には、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットも重要です。

岩手県での発生状況ですが、例年、冬と、春から初夏にかけて2つ報告数のピークがあります。2014年は、11月中旬から患者報告数が増加してきますが、第46週は、平成11年以降で一番報告数が多くなりました。さらに、第49週にはその報告数を上回りました。（下図）。



第49週

第48週

今注目の感染症（つづき）

インフルエンザ

インフルエンザは、第47週（11/17(月)～11/23(日)）に県全体で定点あたり患者数6.20人と、流行の開始の指標である1.0人を超えて、例年より2～3週早くインフルエンザの流行シーズンに入りました。第48週（11/24(月)～11/30(日)）には大きく増加し、10.52人と注意報値（同10人）を超えて、注意報が発令されました。第49週（12/1(月)～12/7(日)）は、すべての地区から患者の報告があり、定点あたり患者数11.55人と前週より増加しました。

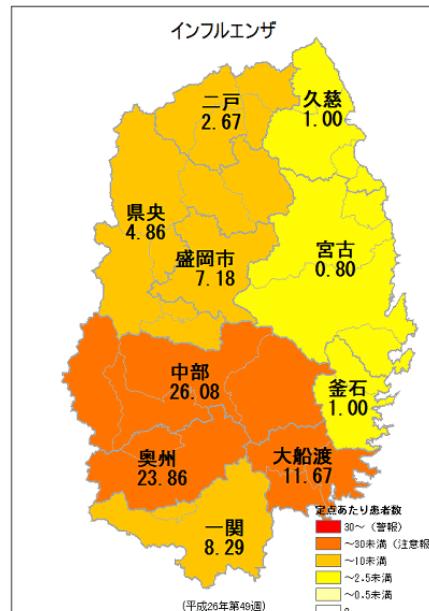
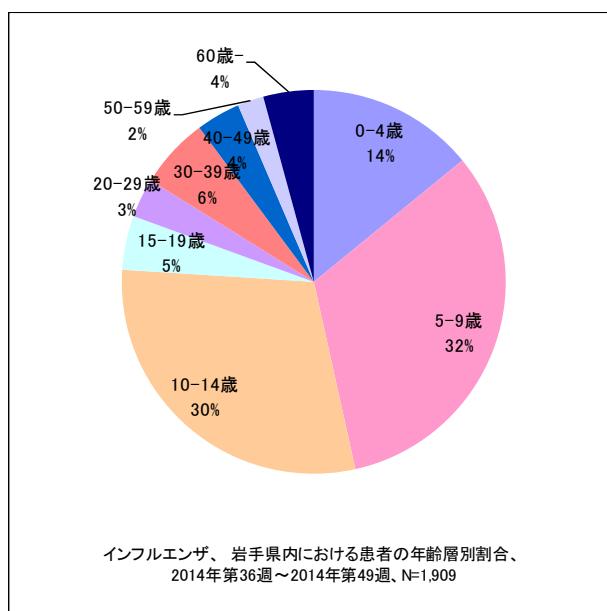
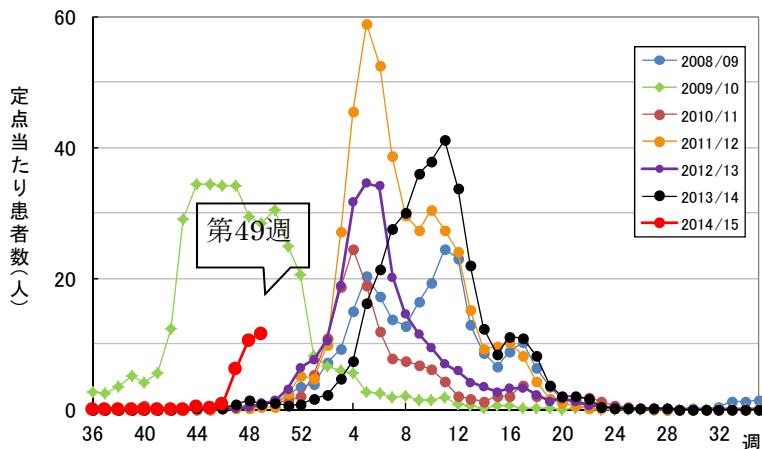
また年齢層別では、5～14歳が60%と小中学生が多くを占めています。12月10日までに学校等休業措置が72件報告されています。（昨シーズン 5件）

インフルエンザの症状は、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れます。かかったかなと感じたら、早めに医療機関を受診しましょう。

予防には、なるべく人混みを避ける、ワクチン接種、帰宅時の手洗い、咳エチケット（咳やくしゃみを他の人に向けて発しない、咳が出るときはマスクをする、手のひらで咳やくしゃみを受けたときはすぐに手を洗うなど）、十分な休養と栄養をとることなどが重要です。ワクチンは接種後2週間で効果が現れることから、流行拡大前の接種が勧められます。

厚生労働省HP インフルエンザQ&A <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkaku-kansenshou01/qa.html>

インフルエンザ、岩手県(2008/09-2014/15)



病原体検出情報

- この週に病原体検出情報はありません。

集団感染情報

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（12月3日～12月10日発表分）

- ・岩手県発表 24件
- ・盛岡市発表 6件

詳細は岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/iryou/kenkou/Influ/index.html>

医療機関からの情報

- この週には医療機関からの情報はありません。

Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

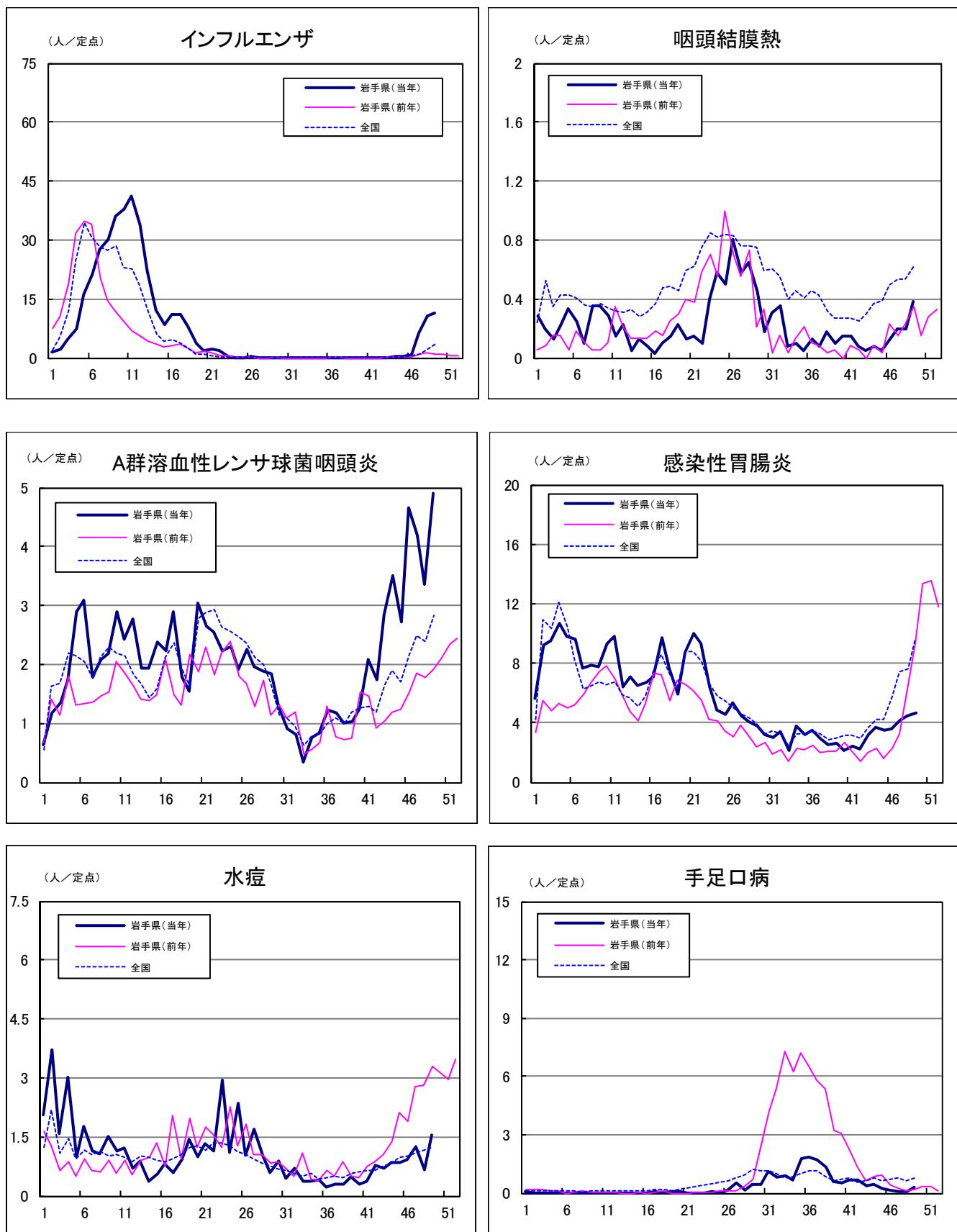
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

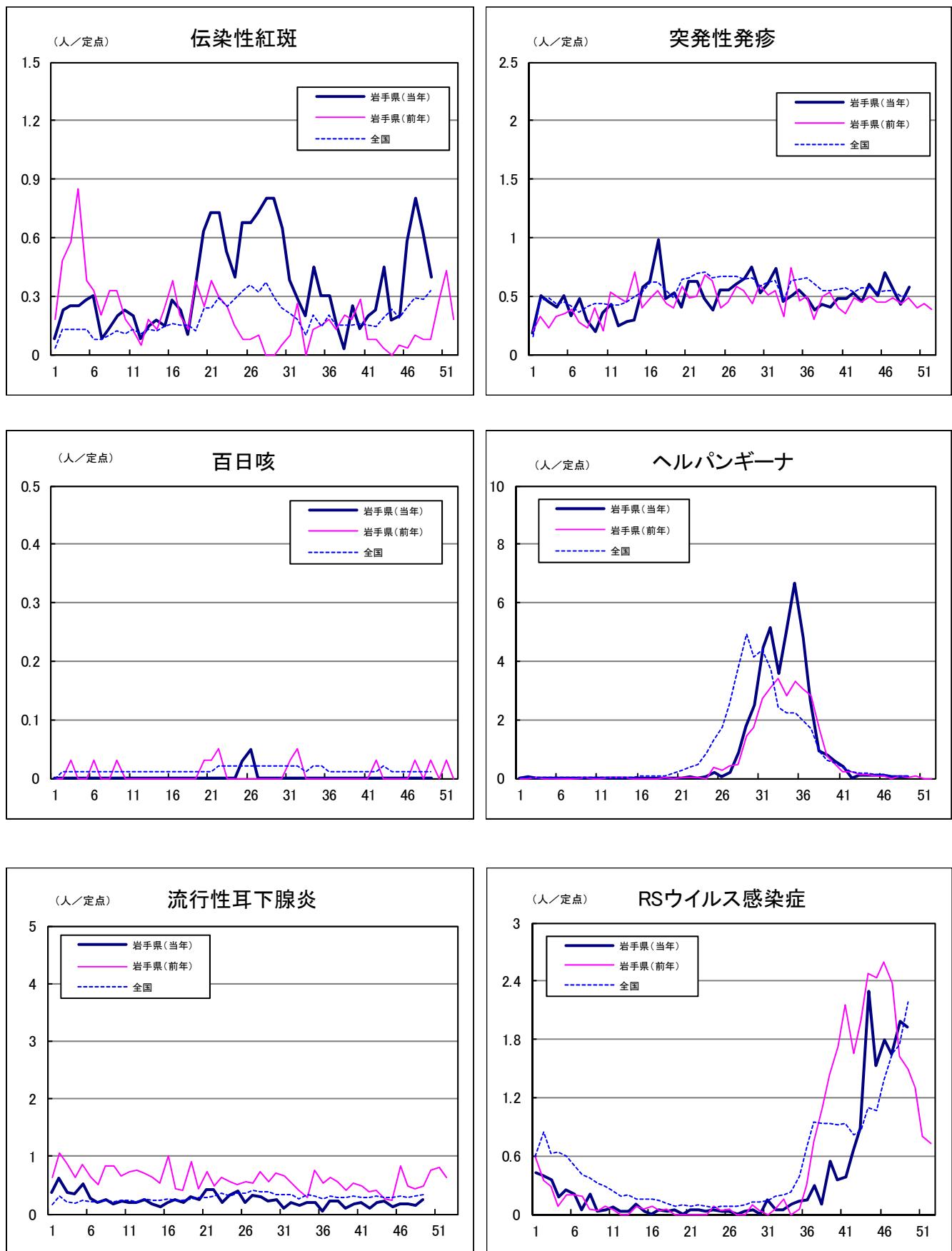
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）

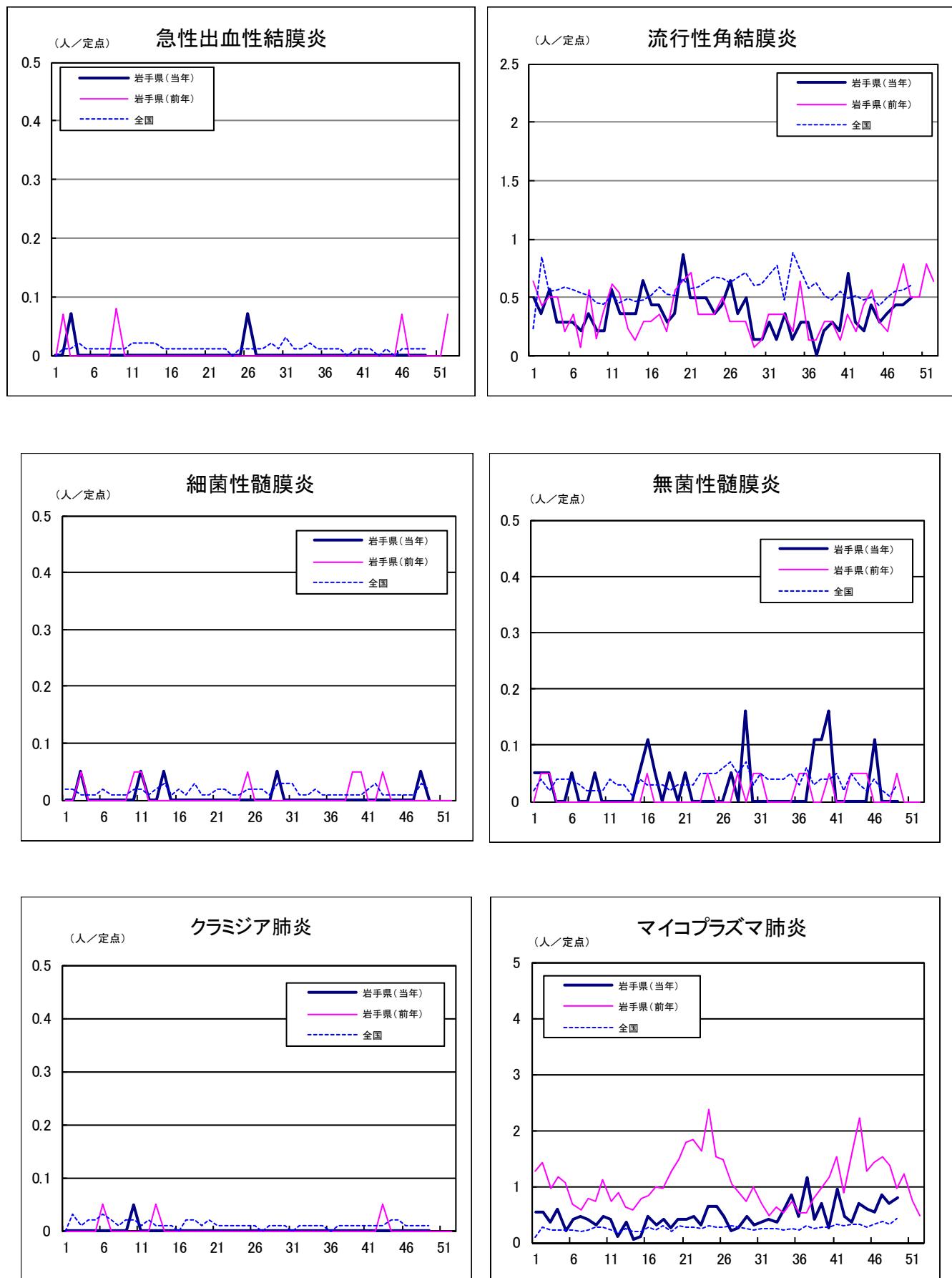
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		64	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		7	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



8

無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成26年第49週 平成26年12月12日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター

(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

URL : <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryou/kenkou/jouhou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>